

令和2年度 中学生の「税についての作文」

柏間税会長賞

「安心感の共有」

柏市立柏第四中学校 三年 山口 恵璃

一年前の私は、夏にマスクを手放せない日常生活を送ることになるなんて想像もしていませんでした。現在、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、多くの方がこの病に苦しめられ、その方々を救おうと多くの医療従事者の方々が寝食を忘れ、日々尽力されています。一日も早く感染された方が元気に回復されることをお祈りしつつ、医療従事者の方々への感謝の気持ちを忘れずに持ち続けていきたいと思っています。

この未知なウイルスから子どもたちを守るために休校が要請されました。初めてのことでだったので驚きましたが、不安に思うことは全くありませんでした。確かに学校で授業を受けることはしばらくできませんでしたが、その間、先生方が準備してくださったプリント教材や動画のおかげで、今まで通りの教育を受け続けることができたからです。そんな中、緊急事態宣言が発表され、経済的影響への一施策として、国民一人ひとりに特別定額給付金が給付されました。私も一〇万円の給付を受けました。中学生の私にとっては、とても高額でありがたいものでした。けれども、今すぐに使わずに将来のために貯蓄をすることにしました。

そのとき、ニュースで学費や生活費を自分のアルバイト代で払っている大学生が、「アルバイトができて困っていたが、給付金を授業料の支払いにすることができ、とても助かる。」と話しているのを見ました。この方にとって給付金の存在がどれほど大きく安心を与えるものだったかと思うと、本当によかったと思いました。と同時に、その財源は何か、と疑問に思い考えると、税金であることがわかりました。

このことから、私は、税金とは「安心感の共有」を具現化したものであると思います。安心して教育を受けることができる、安心して病院に行くことができる、地震や台風などで被害を受けたときも支援金や助成金の給付を受け、安心して生活を立て直すことができる、これらはすべて税金から得られる安心感だと思います。憲法第三〇条には、「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ」と定められています。自分の納めた税金は、日々安心して生活するために使われ、さらに不安を抱えている人に安心を届けることにも役立っているのです。「安心感の共有」を維持するためには、納税の義務をしっかりと果たすことが最も重要だと思えます。自分のためだけでなく、他の誰かのために、私も納税の義務をきちんと果たしていきたいと思えます。

コロナ禍で、私たちの生活は、税金がなくては成り立たないこと、納税の義務を果たすことの重要性、本質を再認識することができました。「安心感の共有」というツールを通して、一人ひとりが社会の一員であるということを知ることができました。